

令和5年10月23日



担当課	教育政策課
担当者	浦川 靖弘 益田 明香
内線番号	4725・4730
直通電話	086-226-7568

お知らせ

令和5年度岡山県教育関係功労者表彰受賞者が決定しました。

岡山県教育委員会表彰規則（昭和36年岡山県教育委員会規則第11号）に基づき表彰を次のとおり行いますのでお知らせします。

記

1 概要

本県教育の振興のために教育、学術及び文化に力を尽くし、その功績が顕著であって、他の模範となる個人又は団体を表彰するものです。

なお、昭和26年が第1回であり、本年度が第74回です。

2 受賞者

個人352人（うち永年勤続功労者328人）、2団体、8公立学校

3 表彰式

(1) 日時 令和5年11月1日（水）14:00～15:30

(2) 場所 ピュアリティまきび 2階 孔雀

(3) 内容 表彰式 14:00～15:00

記念撮影 15:00～15:30

(4) 内容 永年勤続功労者以外の功労者24人、2団体、8公立学校に対して表彰を行います。

令和5年度岡山県教育関係功労者表彰候補者数一覧

区 分		令和5年度	令和4年度
		表彰者数	表彰者数
教育職員で特に功労のあった者		3	3
教育行政に功労のあった者		2	2
保健体育に功労のあったもの	個人	1	1
	団体	0	0
生涯学習及び社会教育に功労のあったもの	個人	1	1
	団体	1	1
文化に功労のあったもの	個人	1	1
	団体	1	1
特殊な業績をあげ功労のあった者		0	0
特に優れた教育活動を行いその業績が奨励に値する者	小	6	5
	中	3	5
	高	5	5
	特	2	0
公立学校で特に業績のあったもの		8	7
小 計		34	32
教育職員で永年勤続し功労のあった者			
・ 小学校教育職員		85	55
・ 中学校教育職員		55	50
・ 高等学校教育職員		84	64
・ 中等教育学校教育職員		4	0
・ 義務教育学校教育職員		3	0
・ 特別支援学校教育職員		30	19
・ 教育委員会事務局職員		26	27
小 計		287	215
学校医、学校歯科医及び薬剤師で永年勤続し功労のあった者		41	20
合 計		362	267

1 教育職員で特に功労のあった者

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	かねだ つとむ 金田 司 (60歳)	真庭市立遷番小学校校長	昭和61年加茂川町新山小学校教諭、真庭郡落合町落合小学校教諭、兵庫教育大学学校教育学部附属小学校教諭、真庭郡勝山町勝山小学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。 平成17年津山教育事務所主査、県教育庁教職員課主任、主幹、副参事、総括副参事として、教育行政の推進に尽力した。 平成24年津山市南小学校教頭として、校長をよく補佐し、平成26年津山市院庄小学校長として、円滑な学校運営に尽力した。 平成28年津山教育事務所長として、豊富な教育行政の経験を生かし、管内の人材育成に尽力した。 平成31年真庭市遷番小学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを発揮し、「課題解決型探究学習」を取り入れ、主体的・協働的な学びによる児童の自己肯定感や意欲の向上に成果を上げた。 令和5年度から岡山県小学校長会副会長。
2	はなふさ あつし 花房 淳 (60歳)	倉敷市立東中学校校長	昭和62年倉敷市福田南中学校教諭、倉敷市児島中学校教諭、倉敷市琴浦中学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。 平成18年県教育庁指導課指導主事、指導主事（主幹）、倉敷市教育委員会学校教育部指導課長補佐、課長、同学事課長として、教育行政の推進に尽力した。 平成31年倉敷市児島中学校長、倉敷市東中学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを発揮し、自ら校内巡視や授業観察を行うとともに、意欲的に特別支援教育に取り組むなど、教員及び生徒が生き生きと活動できる安全・安心な学校づくりに成果を上げた。 令和5年度から倉敷市中学校長会会長。
3	たけうち しげのぶ 竹内 成長 (59歳)	岡山県立岡山大安寺中等教育学校校長	昭和62年久世高等学校教諭、勝山高等学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。 平成21年県総合教育センター指導主事（主幹）、指導主事（副参事）、指導主事として、教育行政の推進に尽力した。 平成27年津山東高等学校教頭として、校長をよく補佐し、円滑な学校運営に尽力した。 平成29年県総合教育センター企画調整監として、県下教職員の資質向上など学校教育の充実に尽力した。 平成31年林野高等学校長、岡山大安寺中等教育学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを発揮し、効果的な人材配置や中等教育の6年間を見通した指導による確かな進学実績を築くとともに、グローバル社会をリードし自らの進路を切り拓く人材の育成に成果を上げた。

2 教育行政に功労のあった者

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	みつ むねひろ 三ツ 宗宏 (61歳)	真庭市教育委員会教育長	平成29年4月に真庭市教育委員会教育長に就任し、在職6年7月の間に、地域での学びを通じ、地域に誇りと愛着を持ち、地域と共に育ち合う「郷育」を各校で実施し、SDGsの視点を取り入れたバイオマス学習や環境学習を必修とするなど、特色のある取組を市長部局や地域と連携しながら、市内全体で共通理解を持って進め、地域一体となった教育活動に尽力した。 市内高校の存続を喫緊の課題と捉え、市内中学生の市内高校への進学希望の上昇を目標に、地域ぐるみで幼・小・中・高が連携する仕組みについて検討し、令和4年度には地域と学校をつなぐコーディネーターを高校に派遣するなど、地域の教育環境を地域全体で支える取組を推進した。
2	ともざね たけのり 友實 武則 (65歳)	赤磐市長	平成25年4月赤磐市長に就任し、在職10年7月の間に学校施設の整備に尽力し、特に小中学校のトイレ環境の改善を推し進め、洋式化率を平成28年4月1日時点の27.0%から、県内で3番目に高い95.1%（令和4年5月1日時点）まで向上させた。 また、小中学校への空調設備の整備も推進し、普通教室及び特別教室の設置率を、就任時（平成25年4月1日時点）の9.9%から、86.4%（令和4年9月1日現在）へ76.5ポイント向上させるなど、教育環境整備の充実に図り、教育水準の向上に大きく貢献した。

3 保健体育に功労のあったもの

(個人)

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	たなか かおる 田中 薫 (60歳)	岡山県立備前 緑陽高等学校 校長	令和2年度から岡山県高等学校体育連盟副会長、令和4年度からは岡山県高等学校体育連盟会長を務め、その間、平成30年度に策定した「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」及び令和4年度に策定した「岡山県学校部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、運動部活動における効率的・効果的な活動の在り方に関する実践や、体罰・ハラスメント根絶の再徹底を図るなど、県内の適正な運動部活動の推進に尽力した。 令和5年4月には、少子化による運動部活動の部員不足から各種大会等に参加できないといった事態に対応するため、「部員不足に伴う複数校合同チーム参加規程」を新たに導入し、本県における高等学校生徒の部活動の学習成果を試す機会の確保に大きく貢献した。

4 生涯学習及び社会教育に功労のあったもの

(個人)

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	なかうち 中内 みさ (62歳)	ノートルダム 清心女子大学 教授	平成23年から子どもほっとライン事業調査研究委員会の委員として、事業の企画・立案や運営に参画し、事業の中心的な役割を果たしている。 平成23年から平成25年に岡山県臨床心理士会研修委員会委員長、平成29年から平成31年に岡山県養護実習委員会委員長を務めており、自らの深い知見を生かし、子どもほっとライン事業のスーパーバイザーとして、相談員を対象とした研修会において、頻回相談者やいたずら電話、性別違和に関する相談への対応について、講義や相談演習等を実施し、相談員のスキルを向上させた。また、平成23年から令和4年には、同事業における養成講座の講師を務め、事例検討等を通じて新規相談員を養成し、円滑で効率的な相談業務の実施に貢献した。

(団体)

	団体名	代表者名	表彰事由
1	特定非営利活動法人備前プレーパークの会	代表理事 きたぐち 北口 ひろみ	自然豊かな里山環境を生かした「森の冒険ひみつ基地」を活動拠点として、冒険遊び場(プレーパーク)づくり活動や子育て支援、保育などの事業に取り組んでおり、地域の子どもたちをみんなで育てる場所や、幅広い世代が自由に集うコミュニティの場所づくりに尽力し、子どもたちの遊びの場や保護者同士のネットワークの構築に大きく貢献している。 令和4年度には、県教委主催の「ひとづくり・まちづくりフォーラム2022」における「つながり合える子育て環境づくり」をテーマとした事例発表や、家庭教育応援フォーラムにおける「広げよう!つなげよう!応援の輪!!」をテーマとしたパネルディスカッションにパネリストとして参加するなど、地域の好事例を県下に普及した。

5 文化に功労のあったもの

(個人)

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	どい みちひろ 土井 通弘 (71歳)	岡山県文化財 保護審議会 会長	平成24年7月から、岡山県文化財保護審議会委員として、考古資料を除く有形文化財に関する第1部会に所属し、令和2年10月からは会長として、県指定重要文化財等の指定などに関して卓抜した知識を発揮し、本県の文化財保護において中心的な役割を果たした。 また、令和2年2月に「金銅造池田光政坐像」及び「木造菩薩坐像」、令和4年3月に「朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足」、令和5年3月には「木造獅子」を県指定重要文化財に指定するなど、多くの文化財を県指定の重要文化財とするために尽力し、本県文化財保護行政に大きく貢献した。

(団体)

	団体名	代表者名	表彰事由
1	よしねんぶつおどりほぞんかい 吉念仏踊保存会	会長 かけい よしゆき 笥 義之	吉念仏踊りは、流行した疫病を鎮めるため跳びはじめたとされ、現在は真庭市吉の法福寺で毎年8月に行われている。吉念仏踊保存会は、踊りが県指定重要無形民俗文化財に指定された昭和36年から吉念仏踊りの保存・伝承に力を注いでおり、過去には2度、岡山県を代表して「中国・四国ブロック民俗芸能大会」に出演するなど、吉念仏踊りの魅力を県内外へ発信している。 保存会員の高齢化や、担い手となり得る地区内の若者の減少が課題となっており、伝統ある踊りの保存・継承のため、落合地域の中高生に踊りを体験してもらおう取組など担い手育成事業に熱心である。日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産2022」にも登録申請し、次世代への継承機運を高めるなど、活発な活動は県内伝統芸能の模範となっている。

6 特殊な業績をあげ功労のあった者
該当なし

7 特に優れた教育活動を行いその業績が奨励に値する者

※年齢は、令和5年11月1日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	たかはし りょういち 高橋 良一 (36歳)	倉敷市立菅生 小学校 教諭	校内の研究主任として、国語科の研究を牽引するとともに、市小教研道德部会の役員を務め、児童の主体的な学びの実現に向け個人研究に勤しんだ。全国大会での発表や校内研修だよりの作成などにより、自らの知識や実践を積極的に還元し、他の教員の授業力向上に貢献した。 学年主任としては、節目ごとのPDCAサイクルを児童に意識させる取組により、落ち着いた学習環境の整備にも尽力しており、誠実に粘り強く課題解決に向かう姿勢は、他の教職員の模範となっている。
2	はたなか みわ 島中 美和 (42歳)	倉敷市立第四 福田小学校 指導教諭	学力向上担当として、児童の基礎学力向上に向け、基礎基本の反復を行う朝学習プログラムの定着に取り組むとともに、家庭学習の進め方や学習規律の確立を具体的にまとめ、共有することで、他の教員だけでなく児童や保護者の共通理解を深めた。 特に若手教職員の悩みに耳を傾け、指導・助言を行うなど、常に人に寄り添う人物であるため、他の教職員から厚い信頼を得ている。周囲の信頼感も相まって学校全体が基礎学力の定着に意欲的に取り組むことができおり、校内の教育実践を支えている。
3	むしあけ ひろゆき 虫明 弘敬 (38歳)	倉敷市立郷内 小学校 指導教諭	校内の研究主任として、教材研究や授業改革に取り組むとともに、定期的な校内研修の実施により、他の教員のICT機器への抵抗を取り除き、新たな活用方法を伝達するなど、リーダーシップを発揮した。適宜若手職員に役割を与え、指導・助言に回るなど、人材育成にも貢献しており、他の教職員から厚い信頼を得ている。 学級経営力に優れ、課題や状況を的確に捉えて前向きに課題解決に取り組む姿勢や、何事にも高い関心をもって挑戦する態度が、他の教職員の模範となっている。
4	ひらい えみ 平井 絵美 (43歳)	笠岡市立神内 小学校 指導教諭	道徳科の教科指導に優れており、県小教研道德部会の推進委員として道徳教育の充実に貢献した。 笠岡市教育委員会の研究指定実践校の研究主任としては、地域を題材とした総合的な学習を行い、考えるための技法である「思考ツール」を効果的に活用することで、地域の生き物や観光資源の持続可能性について児童が自ら課題意識を持つことができ、主体的な学びを促進した。さらに「思考ツール」について、授業公開や研修会により活用方法を他の教員に広めるなど、主体的・対話的で深い学びの研究実践を牽引した。
5	もりさか のぶき 森阪 信樹 (42歳)	瀬戸内市立邑 久小学校 主幹教諭	算数の授業力に優れており、県総合教育センターの研修で講師を務めたほか、授業でのICT機器の活用方法を研究し、瀬戸内市が若手・中堅教員の資質向上のため開講している「瀬戸内まなび塾」の講師として、授業でのGIGA端末の活用をテーマに実践発表を行うなど、地域の授業改善に貢献した。 授業の公開やICT機器を活用した市内学校への配信についても意欲的であり、また、岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業ファイブの各場面における児童への効果的な働きかけについて、OJT研修の企画・実施に携わるなど、若手教員の育成に尽力した。

	氏 名	現 職	表 彰 事 由
6	みとう しんや 御藤 真也 (35歳)	赤磐市立桜が丘小学校 教諭	<p>県教委の「小中学校における特別支援教育推進リーダー養成事業」において、特別支援教育マイスターとして、市内の幼稚園から中学校の巡回や指導・助言を行い、特別支援教育推進リーダーを養成するとともに、教員の指導力の向上や保幼小・小・中の連携による切れ目のない支援体制の整備に尽力した。</p> <p>通常学級において、特性のある児童が他の児童と共同学習できるよう、1人1台端末の活用方法や、授業のユニバーサルデザインについて研究し、県総合教育センターの講師として実践発表を行うなど、インクルーシブ教育の推進に貢献した。</p>
7	にった けいこ 新田 恵子 (44歳)	赤磐市立高陽中学校 養護教諭	<p>教職員中央研修で得た学校保健の知識を生かし、感染症や食物アレルギー、起立性調節障害について校内研修を開催するなど教職員と密に連携したほか、機会を捉えて学校三師や保護者、専門家との連携を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添っている。また、自校生徒の課題を把握し、委員会活動の中で、地域との連携や生徒が自ら学校の課題をアンケート等により把握し、学び、掲示物を作成することで、根拠と自信を持って他者に発信する機会を創出するなど、自己有用感の向上に尽力した。</p> <p>新規採用養護教諭研修の講師を務め、実践を踏まえた保健室経営や教職員中央研修での学びについて共有するなど、後進の育成にも尽力している。</p>
8	みずしま たつや 水嶋 竜也 (43歳)	鏡野町立鏡野中学校 主幹教諭	<p>理科の教科指導に優れており、デジタル教科書や電子黒板等ICT機器の活用及び生徒の実態に応じた班活動や実験結果の共有といった対話的な学び等について、授業研究に努めている。校内研修や町内研修会の講師として、若手教員にアドバイスするとともに、自らの実践を積極的に還元しており、町内教員の授業力向上に貢献した。</p> <p>校内では、「教科指導支援事業」指定校の教科研究推進指導官として、活発な教科会や公開授業等により教員同士の連携を深め、指導の方向性を共有し、生徒の学力向上に尽力した。</p>
9	さとう ひろみ 佐藤 宏美 (37歳)	岡山県立岡山大安寺中等教育学校 教諭	<p>国語科の高い専門性と教科指導力を有し、特に1人1台端末の活用を積極的に研究している。授業ノートを廃止してスライドを活用することで、生徒が自身の考えを表現し、他者の多様な思考に触れる場を頻繁に設けるとともに、教員と生徒が協働的に学ぶことができる仕組みをつくるなど、県教委がICT機器の授業での活用においてSTAGE3に位置付けた「探究的な学習と主体的なICT活用の実現」を意識した授業実践を牽引している。</p> <p>1人1台端末の活用方法について、授業公開や研修を通して校内外に発信しており、他の教員の指導力向上に大きく貢献した。</p>
10	たの まさと 田野 雅人 (48歳)	岡山県立岡山芳泉高等学校 教諭	<p>国事業「外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業」の教員研修に携わり、教員の英語によるコミュニケーション能力等の養成に尽力するとともに、初任者研修における講師や、県総合教育センター主催研修講座の実践発表者として、自らの知識や実践を積極的に還元するなど、県内高等学校の英語科教員の指導力向上に貢献した。</p> <p>校内では、英語科主任として、教員の授業改善や英語力向上に指導的な役割を果たすとともに、グローバル人材の育成に取り組んだ。</p>
11	ひらもと たかあき 平本 隆朗 (38歳)	岡山県立東岡山工業高等学校 教諭	<p>「Society 5.0教育の推進 IoT機器の製作」をテーマに、教室環境測定機器や窓自動開閉装置を製作し、技術の高度化に対応する教材を研究するとともに、中学校への出前授業では、プログラミング体験を実施するなど、県内生徒の工業分野への興味関心を引き出す取組に尽力した。</p> <p>課題研究において、「手指消毒を呼びかける装置」を設備システム科の生徒と共同で製作し、岡山桃太郎空港に贈呈するなど、他科や外部と連携し、工業教育の発展に貢献した。</p>
12	まつだ 松田 こずえ (47歳)	岡山県立岡山東商業高等学校 指導教諭	<p>新科目「観光ビジネス」の実施に向けて、他機関と連携した授業研究を先行して行い、事例共有に努めるなど、商業科の研究を牽引している。販売実習「東商デパート」では、生徒主体の実習となるよう、中心となって企画・研究を行い、接客態度や利益を競う「商業達人CUP」を導入するなど、生徒の職業人としての育成に尽力した。</p> <p>県総合教育センターでは、教育の情報化の推進及び授業改善や新科目に対応する教員の資質・能力の向上に尽力し、県内高等学校商業科教員の指導力向上に貢献した。</p>

	氏名	現職	表彰事由
13	なかもと だいすけ 中本 大輔 (47歳)	岡山県立岡山南高等学校 指導教諭	地理歴史科の教科指導に優れており、県総合教育センターの長期研修員として、思考の軸を基礎とし、一つの事象について時代や社会情勢などと関連付けるためのワークシートや資料の効果的な活用について研究し、生徒の多面的・多角的な思考の育成に尽力するとともに、初任者研修の講師として成果を普及した。 校内では教務課長として、教職員間の連絡調整に努め、教育課程の編成に際して学校のミッション等を教員間で共有するために定期的に会議を開催するなど、マネジメント力を発揮し、学校運営の中心的な役割を果たした。
14	おかもと たかし 岡本 崇志 (43歳)	岡山県立玉野高等学校 指導教諭	数学科の教科指導に優れており、教育課程研究協議会や、県総合教育センター主催研修講座の講師を務めた。自らの知識や、授業改善の取組においてパフォーマンス評価を取り入れるなどの先進的な実践を積極的に還元し、他の数学科教員への助言を行うなど、県内高等学校数学科教員の指導力向上に貢献した。 校内では指導教諭として、生徒の実態を踏まえた授業改善の具体例を示したほか、指導と評価の一体化をテーマに公開授業を実施するなど、各教員の資質・能力の育成及び校内の授業改善に尽力した。
15	むらい あけみ 村井 明美 (45歳)	岡山県立岡山西支援学校 教諭	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の心身の調和的発達の基盤を培う自立活動について、個々の実態に基づき必要な項目を選択して行う指導や、指導と評価を一体的に行い指導を改善し続ける必要性などを専門的に研究した。 「岡山県特別支援学校における知的障害のある児童生徒の指導内容表」の作成に携わり、県総合教育センターでも研修講師を務めるなど、県内の特別支援教育の指導充実及び教職員の専門性向上に尽力した。
16	やまさき よしみ 山崎 好美 (41歳)	岡山県健康の森学園支援学校 教諭	i Padを使用した遠隔操作で、言葉や動作によるコミュニケーションを取ることができるロボット「Orihime」の活用を研究し、教室にいながら校外学習に参加するなど、新たなコミュニケーション手段を生み出し、移動に制限のある児童生徒の多様な経験を可能にした。 進路指導主事として、「Orihime」を活用し、移動に制限がある児童生徒の接客体験を可能にしたほか、地域や企業と連携し、障害のある児童生徒の雇用機会を創出するなど、キャリア教育にも尽力している。

8 公立学校で特に業績のあったもの

	学校名	代表者名	表彰事由
1	津山市立つやま西幼稚園	園長 仁木 美恵子	令和4年度の岡山県人権学習充実拠点校として、「「やってみよう」と心が動き、夢中になって遊ぶ幼児をめざして～保育記録を通して環境構成や教師の援助を探る～」を研究主題に設定し、幼児が自ら好きな遊びを見つけ、意欲的に試行錯誤することで、さらなる「やってみよう」を引き出し、実現するための取組を行った。日々の保育記録や、保育の状況を共有する定期的なカンファレンスの実施について、担任の考えを報告する場ではなく、全職員が幼児の興味やその変容について理解を深めながら、必要な材料や用具等の環境整備や、職員の支援の方法について検討する場とすることで指導改善に尽力し、幼児の主体性を育んだ。 地域の保育園、こども園及び小学校と連携し、一貫性のある人権教育の推進と人権意識の形成に貢献している。
2	玉野市立大崎小学校	校長 中藤 英二	学力向上や、小規模校ゆえの人間関係の固定化によるコミュニケーション能力不足に課題意識を持ち、地域と学校の協働活動がより活性化し、探究的な課題解決型学習となるよう指導改善に尽力した。手伝いではなく、児童をともに育てていく意識の醸成のため、地域の方にも「めあて」を共有し、地域を教材・題材とした特色ある教育の推進に取り組んだ。 教員の問いかけなどの後押しで、体験を振り返ることや、様々な教科で探究的な課題解決に取り組むことで、自ら問いを立て、解決方法を考えることが習慣付き、身の回りの課題を解決し、よりよく生活していこうと考える児童が増加するなど、児童の課題解決に向けて学ぶ意欲の向上に大きく貢献した。

	学 校 名	代 表 者 名	表 彰 事 由
3	美作市立大原小学校	校長 金島 久美子	<p>育てたい非認知能力を、主体・協働・挑戦の3つの心と、3つの心を身に付けるための9つの力として言語化し、学校評価書と連動したカリキュラムマネジメント表に取り入れ、各教員の目標シートにも落とし込むことで、教員が常に授業や活動の意義を意識し、評価・改善を図った。児童にも、この「3心9力」をめあてとして共有し、保護者や地域にも発信することで、共通理解を図り、一体となって、自ら考え、協働しながら活動し、社会に貢献する児童の育成に取り組んだ。</p> <p>地域の特産物をPRするため、もち麦を使用したメニューを考案して高校生にプレゼンし、大学の学生食堂での提供に至るなど、児童は自分たちの発案を他者と協働することでよりよいものにする経験を積んでおり、岡山型PBLの実践に成果を上げた。</p>
4	和気町立佐伯小学校	校長 山本 和宏	<p>子どもを地域の宝と認識し、地域の学校としての役割を果たしている。特に、「山田小プロジェクト」は、平成29年に佐伯小学校に統合された山田小学校の旧校舎について、児童の「母校を朽ち果てさせたくない」という思いからスタートし、クリーン作戦やイベントの開催などを、児童を中心に地域が一体となって行った。</p> <p>旧校舎について、令和4年度には「高齢者が集う憩いの場」及び「観光客が増える話題の場」を目指したお店「トルナードSAEKI」として活用し、地域の企業や農家を巻き込み、商品開発から予算管理、広報まで児童主体で各々が分担して行い、高齢化や人口減少といった地域課題の解決に尽力した。目標に向かって自ら取り組み、課題の解決に貢献した経験から、夢や目標を持つ児童が増加した。</p>
5	玉野市立荘内中学校	校長 住田 義広	<p>玉野市教育委員会指定の「未来の学校づくり推進モデル校」として、「令和の日本型教育」の実現を目指し、教育のDXや未来の学び方、働き方を模索した。クラウド課題やAIドリルを取り入れた予習・復習などの先行学習を基盤としながら、授業で端末を効果的に活用した協同学習を行う「荘内中学びのスタイル」を確立するため、任意の教員チームを結成し、校内研修を実施したほか、保護者の理解向上のために説明動画を配信するなど、組織的に取り組んだ。</p> <p>開発的な生徒指導を推進しており、生徒主体で実施される学力向上の取組及び修学旅行の実施、校則の廃止、生徒会員心得の作成等、生徒の自治活動を全面的にバックアップし、生徒が主役のみんなの学校づくりを行い、生徒の主体性の向上に大きく貢献した。</p>
6	井原市立井原中学校	校長 平井 宏之	<p>「主体的・協働的で深い学びを実現するための指導方法の研究～家庭学習と授業の連携を通して～」を研究テーマとし、教科会を定期的に開催し、端末の効果的な活用や反転学習等について外部講師による校内研修を実施するなど、組織的な授業改善に取り組んだ。</p> <p>特に1人1台端末の活用による授業改善に意欲的であり、「とにかく使ってみる」「対話的な学び 協働的な学び」「協働的な学び 個別最適化された学び」「空間を超えた学び」の4ステップを設定し、全ての教員・教科でICT機器の活用を効果的に行うよう意識している。「空間を超えた学び」として、家庭学習で作成した問題の解説動画や協働編集したスライドを、授業で活用し深める取組は先進的であり、実践発表により県下にも還元し、教員の授業力の向上に貢献した。</p>
7	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	校長 三村 直子	<p>「You Make 鷺羽! 自律 挑戦 思いやり」を教育目標とし、総合的な探究の時間である「児島未来学」を軸に、1年次の多様な仕事観を知る「はたらくLAB」や、2年次の地域課題を分析し魅力発信等に取り組む「鷺羽フェスティバル」の開催等、地域と連携した課題解決型学習を展開しており、生徒が夢や目標を見つける機会を創造し、自己と向き合い、集団の中で自己の適性に応じた能力を発揮することができる学校づくりに取り組んだ。</p> <p>ビジネス科では、地域資源を生かした商品開発がSDGsの課題解決につながるとの視点から、クラウドファンディングで資金を集め、全国の高校生が開発した商品を販売する「SDGsいちなまるしえ」を開催した。地域との連携を県内外に広げる姿勢は他の模範となっている。</p>

	学 校 名	代 表 者 名	表 彰 事 由
8	岡山県立邑久 高等学校	校長 萩原 康正	<p>複数学科を有し、美術や看護を重視するモデルや、保育・食物コースが展開されていることから、教員の専門的な指導が可能であり、「ビジュアルデザイン」「看護医療研究」「保育実践」「フードデザイン」といった特色ある科目選択により、多様な進路希望に応えることができている。</p> <p>地域の活性化に貢献するリーダーの育成を目指す「セトリー」において、地域理解や課題解決に向けた探究活動により生徒の主体性や協働性を育てている。情報ビジネスコースでは地域資源を活用した観光や販売、保育・食物コースでは地域の交流の場づくりや地域食材の活用など、各科やコース、専攻に応じて行われている地域との連携は、生徒の意欲に繋がりがやすく、学校の特色を生かした課題解決型学習となっている。</p>